



小池 勇 議員

農業で生き残る条件は

競争に打ち勝とうとする チャレンジ精神を持つこと

質問・・・農業振興は町長の主要政策のひとつだが、大企業経営者であった町長の目から見た、農業が儲かる経営をするための必要条件は。

町長・・・経営というものは、他者に先駆けて時代の要求にかなった商品、サービスを開発していくことで利益が得られる。しかし、すぐに競争相手に模倣され、時代も変化するので、同じことを同じようにやっていても取り残される。常に創造力を持って開発を進めるチャレンジ精神、競争に打ち勝とうとする姿勢が大切と考える。

農業と言っても、経営という点では何ら変わりはないが、他の産

業とは違う特殊性がある。農業技術は職人技術的な性格を持っているため、伝えることが難しい。しかし、そこを越えなければ、儲かる農業はできない。

現在、新規就農パッケージを用意し、町外から意欲ある農業希望者の受け入れを進めているが、この点がカギであると考えている。富士見町には職人技を持った農業者がたくさんいる。この技術をいかにしたら伝えられるか。また、新規就農者がそれをやりぬく覚悟をどこまで持っているか、ここがポイントである。

経営という視点では、価格決定権を持つことが重要である。当町の農業には4つの段階がある。結果として収支計算をするまでの段階から、自ら販売することで価格決定権を持つ段階までである。2段階の予定収支を考えながらも、市場に決定権を握られている場合が多いが、専業農家として立っていくには、ここを越える工夫が必要だろう。

□その他の質問

*農業振興の基本理念は



五味 平一 議員

町の危機管理の最重要点は

最低でも「人の命」は守る

質問・・・東日本大震災に学び、町の危機管理体制について変更があったか。あった場合どのように変更されたか。

町長・・・今回の震災は、大きな津波と地震の被害を受けたが、地震と津波は分けて考えたい。

特に地震については、栄村を参考にしたい。震度6強の地震に見舞われた栄村は、人口約2,000人の内、避難者1,700人、怪我人10人、死者はゼロであった。人命が確保されたことは驚きだ。どんな大災害でも人の命だけは、守らなければならない。栄村に職員を派遣し、対策を勉強したい。

また、6月4日に行われた防災講演会での危機管理研究所の先生

の話から、起こってからでは遅い、起こることを前提に対策を講じていく。

耐震診断は町民センター・海洋センターが残っているが、町民センターについては、今年度診断を行い、10年以内に99%の確率で発生すると言われている大地震に備える。大地震への備えを町民にも啓蒙していきたい。

質問・・・今年1月27日早朝、道路凍結による事故が多発したが、道路の管理と対策は

町長・・・凍結による立沢線の事故は、悲惨であった。融雪剤の散布不足であったと考えるが、町の場合は、一定のルールで行うのではなく想定外を予測して、対策を講じたい。

□その他の質問

*有害鳥獣対策について
*人口増加対策について